

令和4年産

# 気仙沼・南三陸 稲作情報 第8号

令和4年7月21日発行

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター

TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

## 今後の管理のポイント

- ・ 6月以降高温で推移し、今後も高温が予想されるため、生育はやや早まる見込みです。  
→生育にあわせ、適期の病害虫防除を行いましょう。
- ・ 今後も高温が予想されるため、減数分裂期の追肥や出穂後の「保水管理」等の実施により、玄米品質の低下を防ぎましょう。

## 1 気象の概況

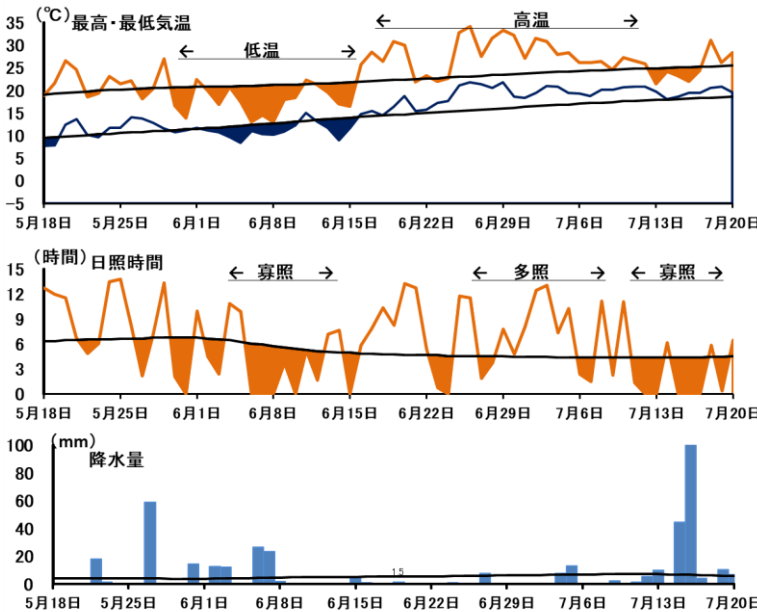


表1 気象経過 (気仙沼アメダス)

	平均気温(°C)		日照時間(h)		降水量(mm)	
	本年値	平年差	本年値	平年比	本年値	平年比
6月 上旬	13.6	-2.7	41.5	64%	76.5	194%
6月 中旬	18.2	0.6	67.7	138%	7.0	13%
6月 下旬	23.1	4.3	60.7	133%	9.0	15%
7月 上旬	12.4	1.6	68.8	101%	53.5	124%
7月 中旬	22.0	0.9	20.5	48%	207.0	304%

### 【6月の気象】

上旬：低温，寡照，多雨  
 中旬～下旬：高温，多照，少雨

### 【7月の気象】

上旬：高温，多雨  
 中旬：寡照，多雨

図1 気象経過図 (気仙沼アメダス：5月18日～7月20日)

## 2 水稻生育調査ほの生育概況

表2 水稻生育調査結果 (7月20日現在)

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/m <sup>2</sup> )	葉色値 (GM)	幼穂長 (mm)
ひとめぼれ 気仙沼市 (本吉町)	本年	5/11	20.7	33.3	30.6
	前年比・差	-1	105%	-4.2	-139.9
	平年比・差	-4	105%	-0.8	-23.4
ひとめぼれ 南三陸町 (志津川)	本年	5/11	19.2	32.9	60.8
	前年比・差	-2	105%	-0.5	-96.0
	平年比・差	-2	107%	-1.3	-5.1

注) 平年値は平成29年から令和3年までの5か年の平均値 (志津川は平成30年からの4か年平均)。

- ・ 幼穂の形成は7月中旬以降の低温・寡照傾向で鈍化しましたが、本吉、志津川ではすでに減数分裂期を迎えました。生育の早いほ場は今月中に出穂が見込まれます。
- ・ 幼穂長は平年・前年を下回っていますが、今後気温が平年並に推移した場合は出穂期も平年並の予想です。このため、高温が予想される本年の出穂はやや早まる見込みです。

### 3 今後の管理の留意点

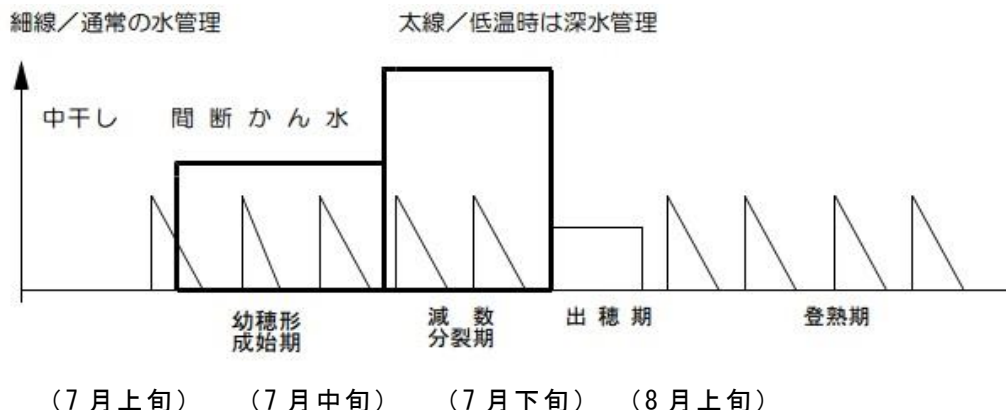


図2 幼穂形成期以降の水田水管理体系（宮城の稲作指導指針（基本編））

#### 【追肥】

- ・登熟期の光合成能力向上，白未熟粒の発生の軽減，玄米品質・食味の向上のため，追肥を実施しましょう。
- ・ほ場ごとに葉色，生育ステージ及び生育量を確認し，適切な追肥を行いましょ（表4，表5，表6）。

表4 幼穂の長さとお穂までの日数の目安

生育ステージ	時期 本吉「ひとめぼれ」 本年値（平年値）	出穂前 日数	幼穂長 (mm)	葉耳間長 (cm)
幼穂形成始期	<u>7月3日</u> （7月12日）	25日	1～2	-
減数分裂期	始期 <u>7月20日</u> （7月22日）	15日	30～40	-10
	盛期 -	12日	80～100	±0
予想出穂期 (出穂率50%)	<u>8月4日</u> （8月4日）	※平年気温並に推移した場合の予測のため， <b>高温の本年はやや早まる見込み。</b>		

注）葉耳間長：止葉の葉耳とその下の葉の葉耳との間隔によって，出穂前日数を予想することができます。

表5 各品種における追肥の時期と量の目安

品種名	追肥時期別及び施肥量（窒素分量）	
	幼穂形成始期（出穂25～20日前） （幼穂長 1～2mm）	減数分裂期（出穂15～10日前） （幼穂長 3～12cm）
ひとめぼれ	1.0kg/10a	1.0kg/10a
まなむすめ	2.0kg/10a	-
ササニシキ	-	1.0～1.5kg/10a
みやこがねもち	-	1.0kg/10a

#### 【病害虫防除】

##### （1）いもち病

- ・病害虫防除所から7月12日に防除情報第5号（いもち病）が発表されました。管内でも葉いもちの発生が見られます。高温により急激なまん延の危険性は低いと考えられますが，出穂に向けほ場を確認し，発生が見られる場合は防除を行いましょ。

##### ○防除のポイント

- ・上位葉の葉いもちは，穂いもちの発生源になります。ほ場を入念に見回り，病斑を

確認した場合は直ちに防除を実施してください。特に、追肥後は一時的に稲体の窒素濃度が高まり、いもち病菌に対する侵入、進展抵抗力が低下するので、薬剤散布を併せて行うなど注意してください。また、いもち病の常発地、葉いもちの予防剤を施用していないほ場、生育が遅いほ場や葉色が極端に濃いほ場も発生に注意してください。

- 穂いもちの予防防除を実施した場合でも、ほ場を入念に見回り、葉いもちの発生を確認した場合は、直ちに茎葉散布剤による防除を実施してください。
  - 穂いもちは、出穂直後が最も感染しやすいので、適期を逃さないよう防除してください。
- ※7月15～16日にかけて大雨により浸水したほ場は黄化萎縮病が発生しやすくなります。感染時期が遅いため直接の影響は少ないと予想されますが、発生するといもち病に感染しやすくなるため、冠水したほ場は特にいもち病の発生に注意し、防除しましょう。

## (2) 紋枯病

- 出穂期前からの発病は被害が大きくなるので、注意してください。
- 茎葉散布剤による散布適期は、穂ばらみ期から穂揃期です。要防除水準（減収率5%、被害発生確率50%の場合）は、穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」で18%となっていますので、要防除水準に達した場合は、防除を行ってください。
- 前年に発生が多かったほ場では、多発のおそれがあるので、防除を実施してください。
- 株元に薬剤がよく付着するように十分や薬量で散布してください。

## (3) 稲こうじ病

- 前年に多発したほ場では注意が必要です。銅剤は予防効果が高く効果的なので、適期（出穂20～10日前）に防除を実施しましょう。

## (4) 斑点米カメムシ類

### ○防除のポイント

#### ①水田畦畔の草刈り（出穂10日前まで）

- 水田畦畔の草刈りは、水稻の出穂前後に行うと水田内にカメムシ類を追い込むこととなるため、水稻が出穂する10日前までに終わってください。

#### ②薬剤防除

- 薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。
- イヌホタルイ、ノビエ等が発生した水田で除草ができなかった場合は、1回目の薬剤散布時期を「出穂始から穂揃期」に早めることで、アカスジカスミカメの密度を低下させ被害を軽減できます。

### 【出穂後の水管理】

- 品質が低下しやすい出穂後5～15日に最低気温23℃以上が連続する場合、白未熟粒が多発し、品質の著しい低下を招く危険性があるので、根の活力維持や同化物質の転流促進を図るため以下の対策を実施しましょう。

#### ●走水等により土壌を常に湿潤状態に保つ保水管理

出穂後の水管理を保水管理で維持することによって、昼間深水・夜間落水管理ほどの効果が得られないが、湛水管理に比べれば乳白粒や胴割粒の発生が低減できる。

### 【落水時期】

- 落水時期は、出穂後30日以降とし、根の働きを維持することで玄米品質や食味の向上を図りましょう。

## ○だて正夢の栽培管理

表7 だて正夢現地栽培技術普及展示ほの生育調査結果（7月20日現在）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	葉色値 (GM)	幼穂長 (mm)
だて正夢	本 年	5/11	21.0	31.5	46.2
気仙沼市	前年比・差	-3	100%	+3.6	+10.2
(本吉町)	平年比・差	-3	106%	-0.2	+26.5

注) 平年値は平成29年から令和3年までの5か年の平均値

- 7月20日現在の幼穂長は36.0mmであり、減数分裂期に達しました。  
→平年（7月25日）と比較して5日早く、生育ステージが進んでいます。  
今後の追肥、防除日程もあわせて前倒しし、適期に実施しましょう。

### 【追肥】

- 基本の追肥は、減数分裂期に窒素成分で2kg/10aとなっています。葉色の低下が早く、幼穂形成期に追肥を行った場合は、減数分裂期の葉色を観察して窒素成分を適宜減量しましょう（目安：窒素成分1~1.5kg/10a）。
- 幼穂形成期に追肥を行っていても、葉色が薄い場合は標準の施肥量（窒素成分で2kg/10a）を追肥してください。

## ○金のいぶきの栽培管理

表9 金のいぶき現地栽培技術普及展示ほの生育調査結果（7月20日現在）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	葉色値 (GM)	幼穂長 (mm)
金のいぶき	本 年	5/11	19.4	31.5	24.9
気仙沼市	前年比・差	±0	102%	+3.8	-52.9
(本吉町)	平年比・差	-	-	-	-

注) 金のいぶきは令和3年度から調査開始のため、前年比・差のみ

- 「金のいぶき」の目標収量（510~540 kg/10a）を達成するため、追肥を徹底しましょう。
- 7月20日現在の幼穂長は24.9mmであり、7月21日ころ減数分裂期に達すると予想されます。  
→葉色が減数分裂期頃の目標値（30~32）を維持しているため、基本の追肥量（窒素成分量1kg/10a）で引き続き葉色を維持しましょう。  
→**穂揃い期の追肥（窒素成分量1kg/10a）も登熟促進に有効です。**高温が見込まれるため、追肥により葉色を維持しましょう。
- 「金のいぶき」は、いもち病に非常に弱い品種なので、普及に移す技術「「金のいぶき」のいもち病防除体系 追補（第93号参考資料）」等を参照し、育苗箱施用剤を使用している場合でも、水面施用剤（パック剤・粒剤）や茎葉散布剤の体系処理を検討してください。

## ○直は栽培の管理

表 12 水稲直は現地栽培技術普及展示ほの生育調査結果（7月20日現在）

品 種 地区名		播種日	播種密度 (株/㎡)	葉色値 (GM)	幼穂長 (mm)
ひとめぼれ	本 年	5/7	19.4	38.8	6.7
気仙沼市	前年比・差	+1	90%	+9.8	+2.1
(本吉町)	平年比・差	-5	94%	+6.3	+4.6

注 1) 播種方式は鉄コーティング湛水直は（点播）によるもの。

注 2) 平年値は平成 29 年から令和 3 年までの 5 か年の平均値。

- ・ 7月20日現在の幼穂長は 6.7mm であり、昨年と同等以上であることから、出穂期は昨年（8月7日）より早まる見込みです（8月5日ころ）。
- ・ 葉色が濃いため、減数分裂期の追肥は標準（窒素成分で 1kg/10a 程度）より半分程度に減らすか、省略しましょう。
- ・ 今後発生してくる病害虫は、基本的には移植栽培と同様に防除します。  
→ただし、直は栽培は移植栽培と比較して 7~10 日程度生育が遅くなるため、斑点米カメムシ類等の防除時期も生育にあわせるように注意しましょう。

○東北地方の 1 か月予報（7月16日~8月15日までの天候見通し）によると、予想される向こう 1 か月の天候は次のとおりです。

期間をとおして気温は高く、降水量・日照時間はほぼ平年並の見込みです。

（仙台管区气象台 令和 4 年 7 月 14 日発表）

（[https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area\\_type=offices&area\\_code=040000&term=1month](https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=040000&term=1month)）

## ○気象から見た栽培管理のポイント

→出穂は高温により早まる見込みのため、出穂前のいもち病防除（予防粒剤の散布）や畦畔草刈りを出穂 10 日前までに終わらせるとともに、出穂後のいもち病・斑点米カメムシ類防除も適期を逃さないように注意しましょう。

→出穂期前後に高温が見込まれます。高温による登熟不良を回避するため、減数分裂期の追肥や出穂後の高温に対応した水管理を実施しましょう。

引き続き高温が予想されることから、熱中症対策を徹底し、安全な作業に努めましょう。

6月1日~8月31日は「令和3年度宮城県農薬危害防止運動」の実施期間です。

農薬を使用する前には、必ず使用可能な作物名・対象病害虫や雑草、収穫前日数等の登録情報をラベルやウェブサイト等で確認し、使用時期、使用方法、使用量を守って使用しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産省のウェブサイト（下記）※で確認できます。

URL (<https://pesticide.maff.go.jp/>)